

## 千葉市美術館企画展「new born 荒井良二 いつも 知らないところへ たびするきぶんだった」を開催します ～絵本作家として知られるアーティスト・荒井良二の「いままで」と「これから」を見通す大個展～

千葉市美術館では、企画展「new born 荒井良二 いつも 知らないところへ たびするきぶんだった」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展では、児童文学の国際賞「アストリッド・リンドグレーン記念文学賞」を2005年に日本人として初めてを受賞するなど、世界的な評価を受けるアーティスト、荒井良二（1956～）の絵本原画や絵画、新作インスタレーションをまじえた約300点を紹介します。

開催に先立ちまして、10月3日（火）15:00から記者の皆さまへの披露説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しくください。

### 1 会期

令和5年10月4日（水）～12月17日（日）

休室日 10月10日（火）、23日（月）、11月6日（月）、20日（月）、12月4日（月）

※第1月曜日は全館休館

### 2 会場

千葉市美術館（中央区中央3-10-8）

### 3 主催

千葉市美術館、朝日新聞社

### 4 ポイント

#### ◆絵本や書籍の原画の魅力を間近で堪能

1990年に「MELODY」を発表して以来、100冊以上の絵本・書籍を手掛けてきた荒井良二。本展では、その中から「あさになったのでまどをあけますよ」や「きょうはそらにまるいつき」など代表的な作品の原画をご紹介します。原画でしかみられない発光するような色や作品の中にいきる人々、いきものなどさまざまなモチーフを間近でご覧いただけます。また、26歳のとき（1982年）に描かれた未発表の作品「みち」の原本も展示されます。

#### ◆絵本だけではない、絵画や立体作品による荒井良二の世界

荒井良二にとって、創作の場は絵本だけではありません。これまでも絵画の展示や、郷里山形を舞台にした「荒井良二の山形じゃあにい」、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」の芸術監督、震災後の東北を巡る活動など、ジャンルを超えた創作を行っています。本展では過去作から最新作まで、絵画や「山形ビエンナーレ 2018」で発表された屋台のような立体物、愛蔵のガラクタなどを荒井自身が再構成し、旅するような気分で日々作品を生み出してきた荒井良二の創作活動を紹介します。

#### ◆新作インスタレーションと千葉会場だけの特別な展示

本展のための新作の立体インスタレーション「new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す」は、2010年に発表した絵画「逃げる子どもI」を再構成し、立体化したものです。展示室に点在する小さな家々にはそれぞれ子どもがおり物語を内包しながら旅をしていきます。子どもたちはどういう状況でどういう気持で移動しようとしているのか、想像しながらご覧ください。また、ドローイングを用いた千葉市美術館のためだけの新たな展示も登場、会場ごとに変わる展覧会をお楽しみください。

#### 5 観覧料

一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)

※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料。

※( )内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金。

※前売券は、ローソンチケット(Lコード「31311」)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて10月3日まで販売(10月4日以降は当日券販売)。

※金・土曜日の18:00以降は観覧料半額(ナイトミュージアム割引)

※10月18日(水)は「市民の日」につき観覧無料

#### 6 関連イベント

作家によるライブや担当学芸員によるショートレクチャー、講演会を開催。

#### 7 添付資料

本展チラシ

「new born 荒井良二 いつも 知らないところへ たびするきぶんだった」関係者向け披露説明会

##### 1 日時

10月3日(火) 15:00から

##### 2 場所

千葉市美術館 8階展示室

##### 3 内容

展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員からご説明します。

作家の荒井良二氏も来場予定です。

#### <本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 山根 佳奈

広報担当 磯野 愛

電話 043-221-2311

FAX 043-221-2316

E-Mail isono@ccma-net.jp